

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年7月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202585		
法人名	有限会社 再輝堂		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	広島市安佐南区相田2丁目15-19 (電話) 082-832-7110		
自己評価作成日	令和元年6月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年7月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム福寿草は、基本理念（和顔愛語）をモットーに、利用者皆様に笑顔になって頂ける様、又、日々穏やかに過ごして頂ける様、心掛けております。季節感を感じられるケア、花や野菜を手にとって頂いたり、窓辺にお花を植えたり、季節の行事等、五感を大切にするケアを実践しております。最後まで口から食事をして頂ける様にと、その人にあった形態での食事を、3食手作りで提供しています。「ここに来て、本当に良かった！」と思って頂ける様、職員一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「和顔愛語」の理念の下に、「利用者がいつも楽しく過ごせるように」職員は取り組んでいる。利用者は、食堂とリビングが一緒になった部屋に集まり、おしゃべり、ゲームを楽しんでいる。「五感を刺激するケア」を重視し、花を飾る、野菜や果物を触る、音楽を聴き・時には皆で唄を歌う、自分の家のような畳敷の部屋での生活・・・を行っている。「おいしい料理を食べる」も重視し、すべて手作り料理で、誕生会のケーキも手作りで提供し、ひな祭りやおせち料理、年末にはもちつきをして新年のお雑煮とするなど、利用者に食事を楽しんで頂いている。要望があれば看取りを行う方針で、医師が必要に応じて医療処置を行い、看取りの事例がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	朝の申し送り時には「和顔愛語」を確認し、今日も一日笑顔で接する様に、ミニミーティングを行っている。	基本理念を「和顔愛語」とし、携帯用カードに明記され全職員が携帯している。また、毎日の申し送りで理念を唱和し、職員会議で説明して理念を共有している。年2回の全体職員会議で「理念が実践出来ているか」を話し合っている。	理念の実践状況は、職員会議で話し合われているが、詳細について報告されていない。また、個人目標を立て取り組んでいるが、達成状況が確認されていない。今後は、個人目標だけでなく全体で取り組む目標を明確にして取り組み、達成状況が評価されることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の清掃活動等に参加している。近隣の方にお花や野菜を頂いたり、散歩中に声を掛けて頂いたりしている。ホームだよりを町内会で回覧し、ホームの状況を理解して頂いている。いきいき100才体操にも参加している。	町内会に加入し、年1回の清掃活動には利用者も参加している。また毎週実施されている「100才体操」や「とんど」に参加し、地域住民と交流する利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が相談に来られたり、質問などに随時対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域包括支援センターの職員さん、町内会の方、家族の方などに出席して頂く様、お願いして意見交換を行っている。	運営推進会議は、日中と夜間、交互に開催され年間の開催日を決めている。会議には毎回利用者が参加し、年1回、消防署立ち合いの避難訓練と同時に開催し、参加者が意見交換をしている。なお、会議の議事録は家族に送付して報告している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや市、区の介護保険課に相談させて頂いたり、状況説明をしたりして、指導頂いている。生保の方の受入れも行っている為、区的生活課や、民生委員の方とも相談している。	地域包括支援センター担当者とは、運営推進会議だけでなく、事業所懇談会の出席など日常的に意見交換している。連休中のゴミ収集に関する地域住民からの要望に対して、地域包括センターを通じて町内会長と話し合い、新しい「ゴミ置き場」が設置された。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は夜間のみとし、声掛け、見守りの強化を行い、職員全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は夜間のみ施錠し、利用者は自由に外に出ることが出来る。身体拘束マニュアルがあり、全体職員会議で説明している。車椅子のオーバーテーブル・センサーマット・居室モニターの設置に関して、家族の承認を得、3か月毎の見直し会議で検討している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>基本理念（和顔愛語）のもと、職員全員で虐待防止に努めている。月1回のミーティングで話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な利用者の方には、活用できる様支援している。法テラスに相談して、助言頂いたりしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時には、本人、家族に充分説明を行い、納得してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関入口に意見箱を設置している。意見、要望は、何時でも受け入れられる様、体制は整えている。</p>	<p>家族が来所された際に意見・要望を聞き、玄関に意見箱を置いているが、今のところ要望はない。施設での飲酒を要望する利用者に対して、家族と相談し、「施設内では禁酒」であるが、家族来訪時のみ飲酒を認めた事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	いつでも職員の意見を取り入れられる様に配慮している。年2回懇親会を行い、代表者も含め全員で、スタッフ同志何でも話せる関係作りに努めている。	毎月の職員会議、年2回の全体会議で職員の意見を聞き、随時、職員の相談に応じている。職員の意見により、浴室に新しいスノコを購入した。職員の勤務シフトは、職員の希望する時間を聞いてシフトを決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見を聞いて、可能な限り改善に努めている。家庭の事情等を聞き、可能な限り、シフトの配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者、職員には、働きながら経験を積み重ねる様に勧めている。可能な限り、研修等は受ける様、シフトの配慮は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協会や、同業のネットワークに加入して、情報交換に努めている。地域包括支援センター主催の意見交換会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の希望などを聞いて、職員間で共有して、信頼できる環境作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望などを聞いて、職員間で共有する為、ケアプランに取り入れ、信頼できる環境作りに取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の希望、相談をしっかり聞き、的確に把握して対応する様、努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は暮らしの中で、利用者から智恵や料理など教えて頂いたりしている。洗濯物を一緒にたたんだり、出来る事は一緒に行う様、心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の日々の様子を見て頂いたり、状態を伝えたりして、本人と家族のコミュニケーションが取れる様に、職員が間に入って関係を支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や友人に出す手紙や年賀状、暑中見舞など職員が手伝い、なじみの関係が維持出来る様に支援している。家庭の都合で退職した職員も、時々面会に来てくれ、利用者も喜んでいる。</p>	<p>家族や友人への年賀状・暑中見舞いは、職員が手伝って完成し投函している。また家族や友人へは、出来るだけ利用者に年賀状・手紙を出すように依頼している。退職した職員が事業所を訪問し利用者と交流することで馴染みの関係となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同志の関係性を把握して、席の配慮など、お互いに関わりが持てる様に、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	手紙や電話などで連絡を取り合うなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から、本人の好みや得意な事などを話題にして、本人が何をしたいのか把握している。本人から聴き出せた情報は、職員全員で共有し、検討している。	日常会話から把握した利用者の思いや意向は、申し送りやケース記録に記載し職員間で共有している。「選挙の投票に行きたい」との要望に対して、家族と一緒に投票に行った事例や「布パンツを着用したい」との要望にも取り組み、実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの経験や暮らしを把握して、役割や出番など場面作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの体調や、ペースに合わせて、日々を穏やかに過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、本人、家族の意見を取り入れ作成している。職員間で計画の内容について担当者会議を行い、見直している。</p>	<p>利用者毎に担当者を決めている。3か月毎に行われるモニタリングは、ケアマネジャーが現状を把握し、担当者の意見を聞いて作成している。その後、担当者会議には、管理者・ケアマネジャー・担当者と職員が参加し、課題に対する具体的なケアプランを検討している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の状態が把握出来る様に、具体的な記録をしている。情報共有しながら実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その場の状態、状況に応じて臨機応変に行動、対応する様に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方、消防署、スーパーなどに協力して頂く様に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要に応じて、協力医の往診、診察を受けている。希望されるかかりつけ医などに受診し、介助を行っている。</p>	<p>入居時に、利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めている。現在は、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。かかりつけ医は、定期的な往診で利用者の健康管理を行い、体調不良時は随時、適切な処置を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、利用者の身体状態の変化や気づきを随時医師に伝えて、適切な医療を受けられる様に支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された際には、ホームから入院先に面会訪問したり、家族に電話して、状態の把握や退院後の方向性について、家族や病院関係者と話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に本人、家族等に終末期の対応について、聴き取りしている。看取りを希望される場合は、医師と連携して、本人、家族の希望に添える様になっている。</p>	<p>入居時に、「重度化した際の事業所の対応」を説明し、家族の要望があれば看取りを行う方針である。重度化した際には「終末期の迎え方」を確認し、家族から同意書を提出して頂く。その後、医師と家族が話し合い、それに沿って支援している。医師は必要に応じて医療処置を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応など、職員同志で勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、夜間想定訓練を行っている。避難誘導マニュアルを基に実施している。スプリンクラー、自動通報装置の設置、又、食料、水等を備蓄、整備している。</p>	<p>夜間を想定した避難訓練を年2回行い、1回は消防署立ち合いの下に運営推進会議と同一日に開催し、訓練後は反省会を行っている。火災時には、町内会長に連絡し近隣住民が協力する体制が確立している。スプリンクラーや通報機の点検、漏電の検査を毎年実施し、火災に備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員会議において徹底している。日々の会話で優しい言葉をかける様になっている。	利用者をお先輩として尊重し、利用者に対する声かけは他の利用者に配慮して行うように指導している。利用者の個人情報、外部に漏れないように職員に徹底し、申送り時に他の利用者には伝わらないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	あらゆる場面で、本人の希望に添える様に、「どうしたらいい？」の声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、日々生活して頂ける様に支援している。出来る限り、本人の希望を聞いて、生活して頂く様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容を受ける際は、本人の希望（丸刈り、おかっぱ等）取入れ、カットしてもらっている。本人好みの衣服や、格好が出来る様、自分で服を選んで着て頂く様にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを、入居者と相談して決めたりしている。野菜の皮むきなど、手伝ってもらっている。誕生日には、好みの献立を用意したり、ケーキでお祝いしている。	毎日の食事はすべて手作りで、誕生会のケーキも手作りで提供し、要望を聞いて献立とすることもある。ひな祭りやおせち料理などの行事食、季節を感じる食材を用いた食事を提供し楽しんでいる。庭で栽培した野菜を利用したり、年末には「もちつき」をして、元日の雑煮に利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の栄養バランスなどに配慮して調理している。水分や食事の摂取量は記録に残し、把握、管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>定期的に歯科医、衛生士の訪問を受け、検診、口腔ケア等して頂き、スタッフにも助言、指導して頂いている。食後、うがいや歯磨きなど、個人個人に応じて支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導、排泄介助など支援している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導しているが、介護度が高い方にはポータブルトイレを設置している。排泄介護を拒否する利用者には根気よく対応し、職員がリハビリパンツとパットの交換が出来るようになった事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>植物繊維を多く含む食品を食事に取り入れたり、水分補給、体操するなど、便秘予防の対応をしている。排泄の記録は把握している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時には、一人ひとりの時間をとり、入浴して頂いている。声掛けしながら背中を流したり、シャワーをかけたり支援している。</p>	<p>週2回入浴するようにしている。ゆっくりと時間をかけて入浴し、利用者と話したり、一緒に唄を歌って入浴が楽しくなるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりのペースに合わせて休憩したり、活動したりされる様に支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	医師の指導の下、確実な服薬支援のため、再度、服薬前に氏名を確認の上、服薬してもらっている。症状の変化にも注意している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	利用者それぞれの得意とするもの、出来る事など把握して、役割や楽しみを持って生活出来る様に支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	気候の良い時は、日光浴、散歩、買物などに出掛ける様にしている。週1回いきいき100才体操に参加している。	介護度が高い利用者が多く、事業所の前は坂で危険なため、なかなか散歩に行けないが、庭の野菜を収穫したり窓際に日光浴をしている。年1回、介護タクシーを利用して、利用者全員で近隣への花見に出かけている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	利用者、家族の希望に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や友人に手紙、ハガキ、電話など、希望に応じて支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭のような雰囲気、落ち着いて過ごせる様にしている。居間、廊下にソファを置いて、ゆっくりとくつろげる空間作りに配慮している。</p>	<p>花の香りが感覚を刺激することから、事業所内にはいつも花を飾って花の香りを楽しんでいる。利用者の願いを書いた七夕の短冊を壁に飾ったり、季節の飾りを利用者と一緒に作り壁に飾っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>好きな場所で、自由に過ごせる様に、ソファを居間や廊下に置いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使われていた馴染みの物など、持って来て頂いて、安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。部屋作りも、家族と本人でもらっている。</p>	<p>今まで使っていた家具を持ち込んだり、家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごせるように工夫している。仏壇や趣味の音楽を楽しむためにキーボードやCDを持ち込んでいる利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体状態に応じて、安全に過ごして頂ける様に、手摺等を設置したり、階段では昇降機を設置して、利用を支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム福寿草

作成日 令和1年 9月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	基本理念が無限大で、達成度が理解しにくい。	小さな目標を立て、積み上げていく。 (9月~10月、笑顔で挨拶をする。)	2ヶ月毎に、具体的な目標をたて、反省、見直し、次の目標を立てる。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。